

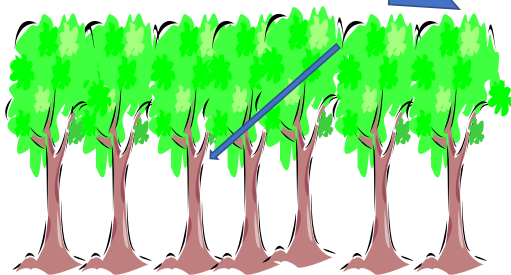
鳥取県林野火災検討会

玉井幸治

(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所

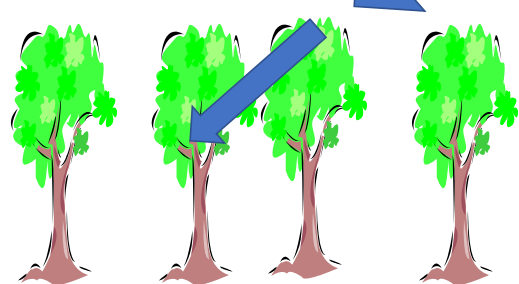
林野火災発生危険度を評価するモデル（林床可燃物の含水比を推定）

樹冠が閉鎖した森林



- ・林床に達する日射エネルギーが少ない
- ・林床可燃物が乾燥しにくい
- ・林野火災発生危険度は低い
(林床可燃物の含水比20%以上では燃焼しない)

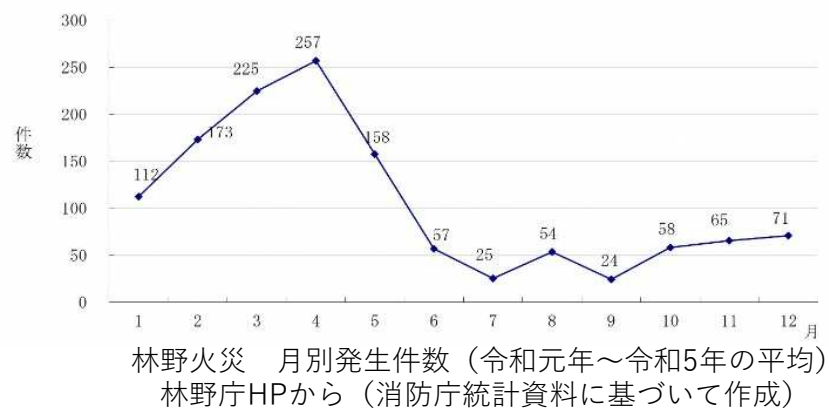
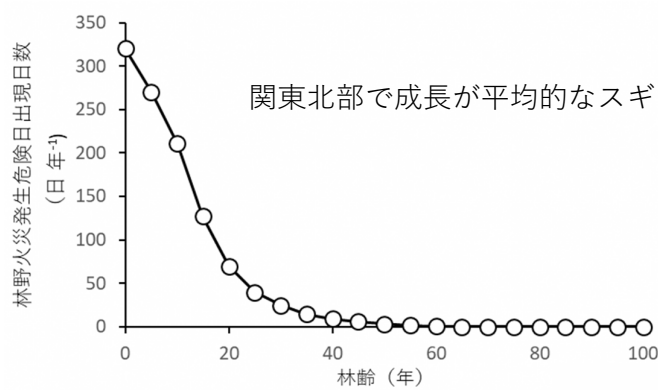
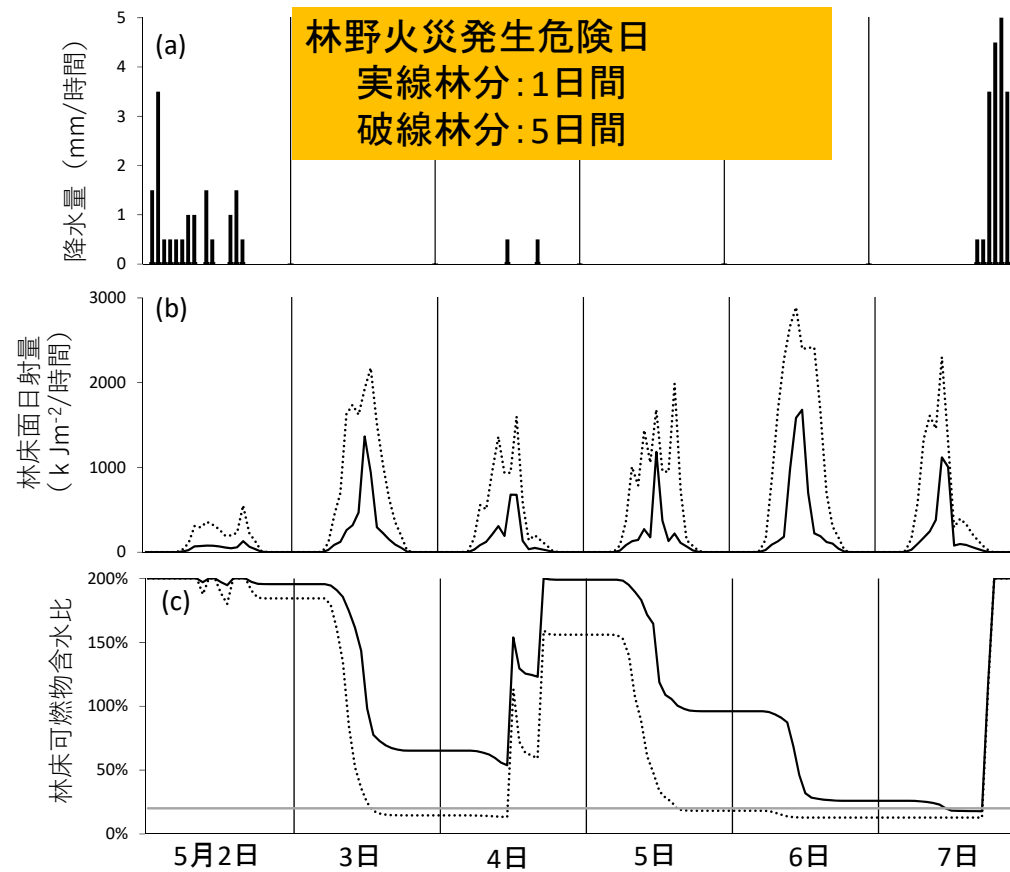
樹冠に隙間のある森林



- ・林床に達する日射エネルギーが多い
- ・林床可燃物が乾燥しやすい
- ・林野火災発生危険度は高い

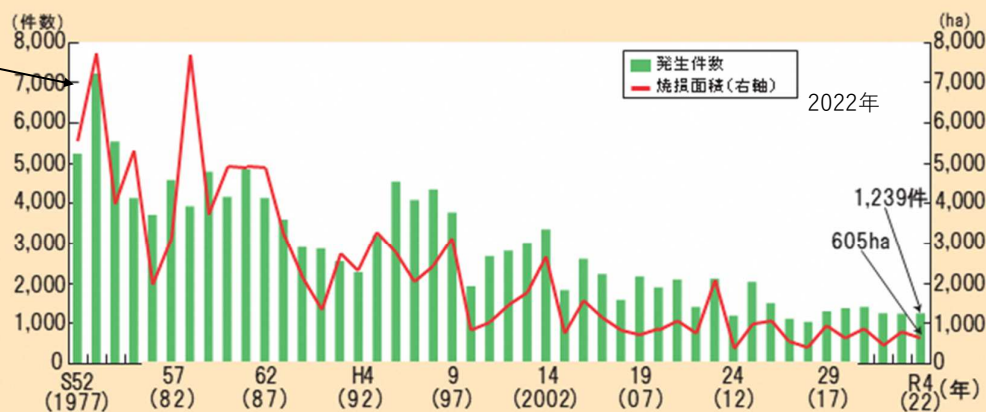
$$\text{林床面日射量} = \text{林外での日射量} \times \text{相対日射率}$$

樹冠の状態で変化



資料I - 27 林野火災の発生件数及び焼損面積の推移

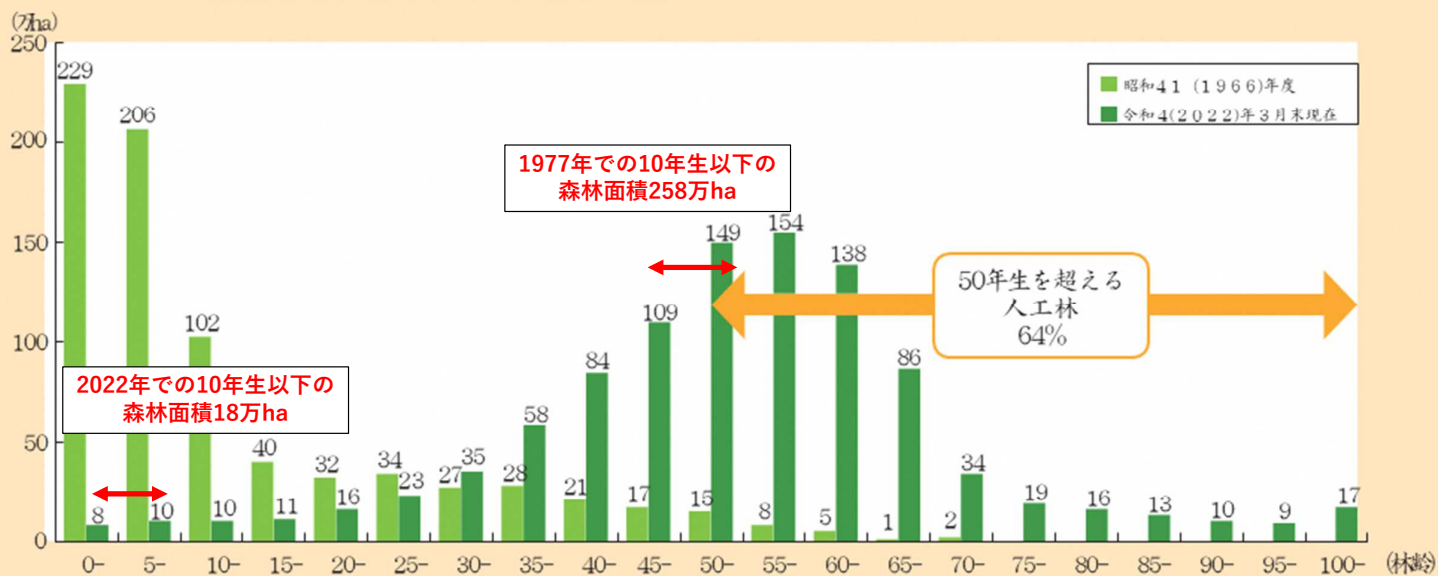
1977年
約5200件
約5500ha



資料：消防庁プレスリリース「令和4年(1～12月)における火災の状況(確定値)」(令和5(2023)年11月29日付け)に基づいて林野庁研究指導課作成。
(令和5年度 森林・林業白書)

- ・日本での林野火災の発生件数、焼損面積は、減少傾向にある。
- ・発生件数は、1977年の約5200件から2022年の約1200件へと減少した。

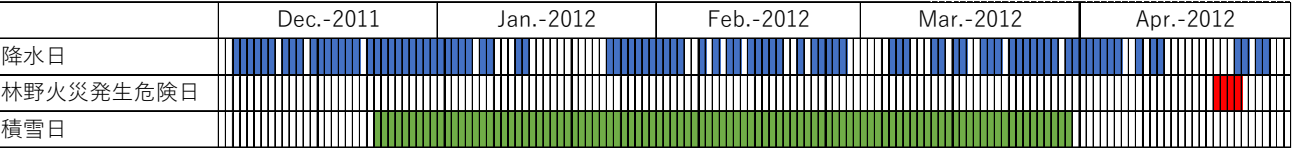
人工林の林齢構成の変化



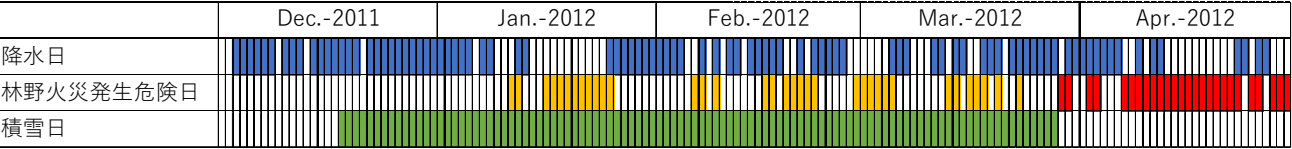
資料：林野庁「森林資源の現況」(令和4(2022)年3月31日現在)、林野庁「日本の森林資源」(昭和43(1968)年4月)

(令和5年度 森林・林業白書の図を基に作成)

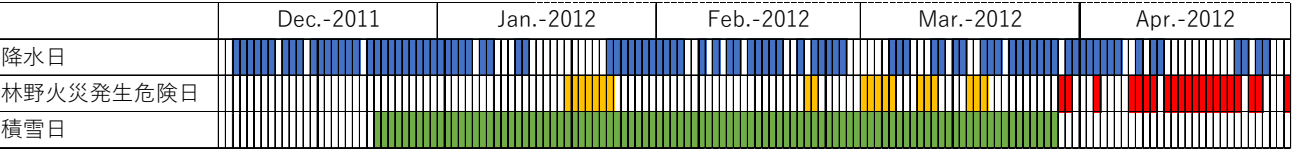
スギ林



皆伐地



落葉広葉樹林



図⑤ 観測期間中に判定された林野火災発生危険日と降水日、積雪日（玉井・後藤、2020）

上段：降水日（青）

中段：林野火災発生危険日（赤；無積雪期間に判定された実際の危険日、
橙；積雪期間に判定され、積雪期間の短縮によって増加する可能性のある危険日）

下段：積雪日（緑）